Japan Society of Obstetrics and Gynecology

P1-34-7 異所性妊娠管理の検討─MTX 療法の pit fall─

大阪医大
野口智子，加藤壮介，奥野勇輔，太田沙緒里，田中健太郎，丸岡理紗，高井雅聡，林　篤史，藤田太輔，山下能毅，亀谷英輝，大道正英

【目的】異所性妊娠の頻度は自然妊娠の 1-2% であるが，近年，不妊治療における生殖補助医療技術（ART）が普及し，それに伴い，異所性妊娠の頻度も増加傾向である．無症状あるいは軽度の自覚症状を有するのみの例では，外科的治療の対象とせず MTX 療法による保存的治療を検討する余地がある．当院では，インフォームドコンセントが得られた場合には MTX 療法を積極的に行っている．しかし，failure 症例も少なからず存在する．今回，当科での異所性妊娠管理について，MTX 療法の failure 症例を含め後方視的に検討した．【方法】2006 年 1 月から 2013 年 9 月までの間，当科において異所性妊娠と診断した 142 例を対象とした．MTX 療法は 50 mg/m^2 を単回筋肉内注射とし，投与後 4 日目から 7 日目の hCG 値において 15% 以上の低下がみられた症例を成功例とした．投与は 3 回までとし，外科的治療が必要になった症例を failure 例とした．【成績】異所性妊娠の 142 例中，72 例に MTX 療法を行った．failure 例は 72 症例中 10 例（13%）であった．10 例中，9 例（90%）が破裂による緊急手術であった．MTX3 回投与後に手術が必要であった症例は認めなかったが 1 例はアクチノマイシン D の追加投与を要した．又，1 例で MTX による重度の好中球減少をきたし，治療が必要であった．【結論】直ちに手術が必要である症例を除き，全ての異所性妊娠症例に対して MTX 療法を治療の選択肢に含めることができると考えられるが，failure 症例や MTX による有害事象をきたす症例も存在し，十分なインフォームドコンセントと常に緊急手術に対応できる施設での管理が必須である．

P1-34-8 当院における異所性妊娠に対する MTX（メトトレキサート）療法の臨床的検討

豊見城中央病院
安座間誠，小林剛大，田近映子，土井生子，當眞真希子，白石康子，上地秀昭，野原　理，前濱俊之，東　政弘

【目的】異所性妊娠は全妊娠の 2% 程度に発生し，不妊治療後には 3.1%，とくに ART（生殖補充技術）後には 4-5% に発生する．また，帝王切開の増加に伴い卵管妊娠のみならず帝王切開瘢痕部妊娠も増加している．近年，経腟超音波や血中 hCG 値測定により破裂前の早期診断が可能となり，腹腔鏡下手術や MTX（メトトレキサート）療法による卵管温存を考慮出来る症例が増加している．当院では MTX 療法を選択する場合の投与方法として，one-dose regimen と B.E.Seeber らの報告を参考に Day-1，Day-4 で MTX50mg/m2 投与し Day-7，Day-10 の hCG 値の減少率で追加投与を考慮する Two-dose regimen を用いている．【方法】2006 年 4 月から 2013 年 9 月における異所性妊娠 118 例について後方視的に分析した．【成績】着床部位の内訳は卵管膨大部・峡部 90 例，間質部 6 例，卵巣 4 例，頸管 3 例，帝切瘢痕部 5 例，子宮内・卵管同時 1 例，子宮内・頸管同時 1 例であった．初回治療は腹腔鏡手術 56 例，開腹術 13 例，MTX 療法 40 例で Two-dose regimen を選択した症例は 28 例あり，手術療法追加 5 例，子宮動脈塞栓術追加 1 例であった．【結論】MTX 療法のレジメンとして Two-dose regimen は副作用，患者 QOL の点から有用で頸管妊娠，帝王切開瘢痕部妊娠に対しても応用可能であった．異所性妊娠は今後も増加すると予想され，早期診断は妊孕能温存を考慮した治療の選択が行えるため非常に重要であると考えられた．

P1-34-9 腹腔鏡下卵管保存手術後の PEP（persistent ectopic pregnancy）例の検討

済生会長崎病院
浜口大輔，吉田至幸，妹尾　悠，北島百合子，平木裕子，河野通晴，藤下　晃

【目的】妊孕性の温存を目的とした腹腔鏡下保存手術が行われているが，短所としては絨毛遺残（PEP：persistent ectopic pregnancy）が挙げられる．今回術前術後の血中 hCG 値の推移から早期に PEP の診断が可能かどうか？また PEP と診断した症例の予後ついて retrospective に検討した．【方法】2005.4～2013.8 までの期間に卵管妊娠に対し腹腔鏡下手術を施行した 244 例を対象とした．血中 hCG 値は原則として術前，術後 1，3，7 および 14 日目に測定した．根治術施行例での術後血中 hCG 値を術前の hCG 値で除した値（血中 hCG 値比）の平均値から減衰曲線を作成し，卵管保存術が成功した症例と PEP 例とを比較検討した．【成績】244 例中根治術は 136 例，保存手術は 108 例であった．保存手術施行例のうち 22 例（20%）を PEP と診断した．このうち 20 例は MTX 50mg 筋注を併用し，4 例が卵管摘出術を施行した．根治術後の血中 hCG 値比の減衰曲線は $y=1.0907x^{-2.109}$ ($R^2=0.82414$) であった．保存術成功例では術後血中 hCG 値比はほぼ減衰曲線通りに推移していた．PEP 例では術後 2 日目までは減衰曲線より低値を示していたが，3 日目に値が上昇した例が 7 例（32%）と最も多く，14 日目以降に値が上昇し MTX 療法を施行した例が 3 例（14%）存在した．PEP 例のうち子宮卵管造影を施行した 13 例中 10 例（77%）で卵管疎通性が確認できた．【結論】術後 3 日目の血中 hCG 値の測定は PEP の予測に有用と思われるが，術後 2 週間経過したあとに hCG 値が上昇する例もあるため注意深いフォローが必要である．

NII-Electronic Library Service